科目コード	53160	授業科目	生涯人間発達学 Life-span Development	担当教員	○上田礼子（名誉教授）

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	生命の誕生から死亡まで人間の生涯を発達的観点からとらえる種々の理論を学習し、理論構築の背景となった実証的研究と保健看護への応用を学習する。人生の各期における健康上のリスク児・者の問題を発達的観点から理解し、問題解決を保健看護の立場から支援に役立てる最近の理論、方法・技法を学習する。
到達目標	1．各々のライフステージの人を対象に高度なケアを計画、実行、評価するために発達理論を応用する。 2．発達的視点から複雑な健康問題を評価し、対応する。 3．人間の成長・発達上の問題を歴史的、社会・文化的、生態学的に分析し、総合的に理解する。 4．先進国、開発途上国と比較して日本における人間発達的特徴の理解を深める。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	総論　生涯人間発達の概念、年齢と時代、人生各期の区分	上田
第2回	発達理論	
第3回	各理論の保健看護への応用	
第4回	生涯発達の研究方法（1）	
第5回	生涯発達の研究技法（2）	
第6回	各論　出生前発達とケア	
第7回	乳児・幼児前期の発達と支援	
第8回	幼児後期の発達と支援（1）	
第9回	幼児後期の発達と支援（2）	
第10回	乳幼児期の発達評価と支援	
第11回	学童期の発達と支援	
第12回	青年期の発達と支援	
第13回	成人期の発達（成熟）と支援	
第14回	老年期の発達（成熟）と支援	
第15回	総括	

テキスト	上田礼子　「生涯人間発達学」　改訂第2版増補版第3刷　三輪書店　2013
参考書	上田礼子編著　「子どもの発達と支援」　中外医学社　2001 上田礼子著　「上田式発達簡易検査」医歯薬出版　2011 新井清三郎, 上田礼子　リハビリテーション医学全書2,「人間発達」, 第1版第23刷, 331-333, 医歯薬出版　1996 上田礼子著, 「子ども虐待予防の新たなストラテジー」医学書院, 2009 Alison Clark-Stewart, Lifelong Human Development, Wiley, N.Y. 1988,　その他
成績評価の方法	評価は出席、授業参加時の態度、試験、レポートなどを総合して判断する。
備考	学習方法：教科書および関連する参考書、文献の活用、発達簡易検査の活用、子どもの養育環境評価資料、ビデオの使用、Field での観察・面接による学習

※奇数年度（西暦）開講

科　目 コード	53170	授業 科目	生体機能とリスク Functions of the Human Body and Risk	担当 教員	○佐伯宣久

開講年次	博士前期課程 １年次前期	単位数	２単位	科目 分類	選 択 科 目	授業 形態	講　義
選択必修	選　択	時間数	３０時間				

授業概要	人体の正常な構造および機能との関連性についての知識を与える。これらを基礎とし病気の発生機序を理解させると同時に、基礎的な検査、診断および治療（薬理作用など）を教授する。
到達目標	1．各器官系の構造・機能を理解し、疾患の発生メカニズムを理解する基礎とする。 2．検査や治療について、解剖生理学的観点から理解する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
全１５回	各器官系の構造と機能について解説する。また、症例を提示し、その中で示された症状や行われた検査及び治療法について、その生理学的基礎を考察し、討論を行う。	佐　伯
第１回	細胞と遺伝	
第２回	骨格系	
第３回	筋系	
第４回	呼吸器系	
第５回	循環器系	
第６回	泌尿器系	
第７回	消化器系（１）	
第８回	（２）	
第９回	内分泌系	
第１０回	神経系（１）	
第１１回	（２）	
第１２回	血液系	
第１３回	体液調節	
第１４回	感覚器系	
第１５回	免疫系	

テキスト	関連する文献などを適宜配付する。
参考文献	各授業で必要に応じて参考文献を紹介する。
成績評価の方法	授業への参加状況とレポートで評価する。
備　考	各講義の前準備として事前に設定する課題について調べ、授業に参加していただきたい。

科目コード	53110	授業科目	疫学と保健統計Ⅰ Epidemiology and Health Statistics I	担当教員	○金城芳秀

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	ある特定の集団（地域、職域、学校などを含む）における健康に関連した状態や事象の分布（記述疫学による）と決定要因（分析疫学による）及び健康管理への疫学および統計学の活用について学習し、グローバル化時代に対応した疾病のリスクマネジメントを、疫学的方法論からアプローチし、解決方法を探索する。 看護分野の研究における疫学および統計について理解を深め、その手法について説明できること、及び実践のための疫学研究を理解し、実行できるよう学習する。
到達目標	1. 学術論文に用いられる疫学および統計手法を理解、説明、活用できる。 2. 自らの研究（特別研究Ⅰ、課題研究）において疫学および統計手法を活用できる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	疫学と統計学の看護学への応用	金城　芳秀
第2回	統計的検定、推定	
第3回	医療従事者のための統計手法（理論）	
第4回	医療従事者のための統計手法（応用）	
第5回	SPSSによるアンケートの調査・集計・解析	
第6回	応用統計Ⅰ：回帰分析	
第7回	応用統計Ⅱ：生存分析	
第8回	保健看護への疫学の導入	
第9回	患者・対照研究	
第10回	コホート研究	
第11回	環境と疫学	
第12回	感染症の疫学	
第13回	がんの疫学	
第14回	社会疫学	
第15回	討議およびレポート課題	

テキスト	講義資料を配布する。
参考文献	随時紹介する。
成績評価の方法	レポート課題と参加状況により評価する。
備考	

科　目 コード	53130	授業 科目	ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ Health Promotion and Health Education I	担当 教員	○川崎道子 守山正樹（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	選 択 科 目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	疾病の早期発見／治療からリスク軽減など従来の予防医学的な展開から、積極的に個人や集団の健康を求める方向に向かう中で、健康教育の考え方が生まれた。さらに周囲の人々や社会を健康的な方向に動かし、導く考え方としてヘルスプロモーションが生まれた。本授業では、これらの考え方の理論的発展過程を学び、日々の生活や研究での応用力を磨く。 ヘルスプロモーションの理論の中心は、主に欧米で形成されたが、南米生まれのエンパワーメントの考え方は、ヘルスプロモーションの核になりつつある。また日本も含め、アジア諸国でヘルスプロモーションの展開においては、沖縄も含め、アジアの人々の思考過程や感性も考慮する必要がある。本授業では、受講者相互の対話や、感覚体験の演習から、エンパワーメントの意味を実践的に理解し、学校保健も含めて医療と教育、福祉の分野における連携とそれぞれの役割について学際的、国際的視野から学習する。 慢性疾患をもって地域で生活する人のセルフコントロールとそれに関連する要因、患者教育などポジティブヘルスからアプローチを学習する。
到達目標	1. 健康教育とヘルスプロモーションの歴史的・理論的背景を理解できる。 2. 健康教育・ヘルスプロモーション研究を適切に位置づけられる。 3. 保健看護に健康教育・ヘルスプロモーションを位置づけられる。 4. 保健看護に応用できる健康教育・ヘルスプロモーションの方法と技法を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	20世紀以前の健康教育	守山正樹
第2回	健康教育の母体となった実験心理学の視点	
第3回	行動科学の発達が健康教育に及ぼした影響	
第4回	社会心理学的なモデルと健康教育の社会化	
第5回	公衆衛生革命とヘルスプロモーションの誕生	
第6回	オタワ憲章からヘルスプロモーションを読み解く	
第7回	エンパワーメントとヘルスプロモーション	
第8回	構成主義的な学習理論とヘルスプロモーション・健康教育	
第9回	人々と世界の再構築を続けるヘルスプロモーション・健康教育	
第10,11回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(小児・母性編)	川崎道子
第12,13回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(成人・老年編)	
第14回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(精神編)	
第15回	保健看護におけるヘルスプロモーション・健康教育の実践的な展開方略に関する発表とまとめ	

テキスト	日本健康教育学会編、「健康教育＿ヘルスプロモーションの展開」、保健同人社
参考文献	ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｗｉｆｙｗｉｍｙ．ｃｏｍ／
成績評価の方法	評価は、課題レポート、討議への参加度・理解度によって総合的に判定する。
備　考	集中講義方式で行う。講義では積極的な質疑、討論を期待する。

科目コード	53140	授業科目	保健看護情報 Nursing and Health Informatics	担当教員	○金城　芳秀		
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				
授業概要	離島・へき地を抱える沖縄県では、ICT を応用したテレヘルス、テレナーシングによる保健医療システムの質改善が期待されている。その際、保健看護の専門職者にはどのような看護能力（知識・技術・態度）が求められているのだろうか。さらに看護能力の向上では、ｅラーニングや継続教育がどのような役割を果たすことができるのであろうか。ここでは、対面授業でのディスカッションを中心に、ｅラーニングシステムを活用しながら、学習者の知識と技術の向上を目指す。						
到達目標	1. 病院・施設、家庭、地域それぞれの場面において有用な保健看護情報について述べる。 2. 遠隔地における保健看護上のニーズおよびコミュニケーションについて説明する。 3. 患者情報の守秘、法的倫理性、保護など、専門領域における情報の活用方法を述べる。						

回　数	教　育　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	看護情報学　－看護情報学に必要な能力	金城　芳秀
第2回	Telenursing	
第3回	e-learning と看護継続教育	
第4回	情報の伝達とコミュニケーション	
第5回	ポピュレーションの健康	
第6回	健康の決定要因	
第7回	健康格差	
第8回	健康政策	
第9回	健康情報へのアクセス（情報リテラシー）	
第10回	プレゼンテーション	
第11回	患者の権利とインフォームド・コンセント	
第12回	ICT とプライバシー、守秘、情報保護	
第13回	看護における継続教育	
第14回	データ、情報および知識の統合にむけて（ディスカッション）	
第15回	島嶼県沖縄のニーズと ICT	

テキスト	関連資料、文献等を適宜配布する
参考文献	Hunter MK: International professional standards for telenursing programmes standards and competencies　International Council of Nurses 2001 American Nursing Association: Nursing Informatics -Scope and standards of practice- 2nd Edition 2015
成績評価の方法	評価は討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う
備　考	

科　目 コード	53220	授業 科目	地域文化看護論 Community Culture and Nursing Theory	担当 教員	○大湾明美 津波高志　岩﨑弥生 小川寿美子

開講年次	博士前期課程 1年次･前期	単位数	２単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	３０時間				

授業概要	看護における地域文化の影響、地域文化に根ざした看護について検討する。
到達目標	1.文化の概念と琉球弧の文化を学ぶ。 2.健康と文化の関係を学び、異文化看護、地域文化看護について説明できる。 3.看護における地域文化の影響について説明できる。 4.地域文化に根ざした看護の必要性について具体的に説明できる。 5.国内外の地域文化と看護に関する課題を学び看護実践に生かすことができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
	オリエンテーション	大湾明美
第1回	文化の定義：	津波高志
第2回	琉球孤の文化概観：	津波高志
第3回	異文化看護とは　地域文化看護とは：	岩﨑弥生
第4回	看護における地域文化の影響：	岩﨑弥生
第5・6回	海外にみる異文化と看護実践：	小川寿美子
	海外事例研究と実践事例から	
第７・8回	沖縄に見る地域文化と看護：	大湾明美
	沖縄の事例研究と実践例から	
第9・10回	看護実践における地域文化の影響事例について学生の報告：	大湾明美
第11・12回	国内外の地域文化と看護に関する課題（海外）	小川寿美子
第13・14回	国内外の地域文化と看護に関する課題（国内）	岩﨑弥生
第15回	まとめ：	大湾明美

テキスト	必要に応じて資料を配付する。
参考文献	講義のテーマに沿って、その都度紹介する。 高橋孝代(2006) 、境界線の人類学、重曹する沖永良部島民のアイデンティティ、弘文堂 レイニンガー(1992/1995) 、稲岡文昭監訳、レーニンガー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、医学書院 Kiefer, CW(2006/2010)、木下康仁訳、文化と看護のアクションリサーチ、保健医療への人類学的アプローチ、医学書院 Roper, JM(2000/2003)、麻原きよみ・グレッグ美鈴訳、エスノグラフィ、日本看護協会出版会
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。
備　考	

※偶数年度（西暦）開講

科目コード	53180	授業科目	看護倫理 Nursing Ethics	担当教員	○ 山本敬子 村上満子 手島恵(非常勤)

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	２単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	看護倫理の基本的原則を理解し、倫理的課題を検討し、実践現場で活用できる倫理的判断能力と問題解決技法を学ぶ。
到達目標	１．看護倫理の原則・規範について説明できる。 ２．看護倫理の主要な概念について述べることができる。 ３．倫理課題とその解決技法について述べることができる。 ４．倫理的問題について多様な価値観に耳を傾けると共に自分の意見を述べることができる。 ５．倫理的感性を高める必要性について理解する。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1・2回	看護倫理の概念と倫理原則、倫理規範	村上
第3・4回	看護倫理の主要な概念	山本
第5～9回	看護職の臨床現場における倫理的ジレンマと課題解決	手島
	倫理的ジレンマにおける意思決定や解決モデル	手島
	看護をめぐる法的問題と倫理	手島
	看護管理における倫理	手島
第10・11回	倫理課題とその解決技法　事例検討①	山本
第12・13回	倫理課題とその解決技法　事例検討②	山本
第14・15回	専門看護師の倫理調整の役割	非常勤講師

テキスト	小西恵美子編、看護倫理 - よい看護・よい看護師への道、南江堂
参考文献	看護倫理を教える・学ぶ　倫理教育の視点と方法.　日本看護協会出版会 西川満則他. 本人の意思を尊重する意思決定支援. 南山堂 宮坂道夫.(2005). 医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ. 医学書院 適宜、授業で文献を紹介する
成績評価の方法	授業への参加姿勢(20%)、プレゼンテーション（20%）、レポートの内容(60%)
備考	事例検討について プレゼンテーションと討議を行なう。 事例検討は受講生が体験した事例を取り上げる。発表者は授業の前日までに発表資料を参加者に配布する。

科　目 コード	53190	授業 科目	看護コンサルテーション （Nursing Consultation）	担当 教員	○村上満子 吉澤龍太(非常勤) 上原勝子(非常勤)

開講年次	博士前期課程 １年次後期	単位数	２単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30 時間				

授業概要	援助関係の基本となる問題解決過程とコンサルテーション過程についての理解を深め、看護組織におけるコンサルテーション機能の重要性について学習する。また、事例検討を通して専門看護師に必要な看護コンサルテーションの基本的技法を学ぶ。
到達目標	1. 看護実践に必要なコンサルテーションの意義を説明できる。 2. 看護組織におけるコンサルテーション機能の必要性を説明できる。 3. 看護実践の問題解決法としてコンサルテーション過程の適用を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１・２回	コンサルテーションの概念 コンサルタント及びコンテルティの役割	村上
第３・４回	専門看護師の役割・機能とコンサルテーション 援助関係としてのコンサルテーション	村上
第５・６回	プロセス・コンサルテーション 問題解決過程とコンサルテーション過程	村上
第７・８回	コンサルテーションのタイプ クライエント中心のケースコンサルテーション コンサルティ中心のケースコンサルテーション プログラム中心の管理に関するコンサルテーション コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション	村上
第９・10 回	臨床現場におけるコンサルテーションと CNS の役割	吉澤・上原 (非常勤)
第 11・12 回	コンサルテーションが必要な事例・場面の設定と組み立ての演習	村上
第 13・14 回	コンサルテーションに関する文献学習により，コンサルテーションの技法や評価について学ぶ	村上
第 15 回	コンサルテーション活動の実践と評価（まとめ）	村上

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	・シャイン,E.H.(著) (1996/2004). 稲葉元吉, 尾川丈一.(訳).プロセス・コンサルテーション〜援助関係を築くこと〜. 白桃書房. 随時、資料を配付する。
成績評価の方法	評価は授業への参加度、プレゼンテーション、レポート等を総合して行う。
備　考	授業の前半は集中講義、後半はグループ学習形式で行う。

科目コード	53201	授業科目	看護管理・政策 Nursing Administration & Health Policy	担当教員	○宮里　智子 田村やよひ（非常勤）

開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	保健看護サービスシステムについての理解を深め、看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。 わが国の保健看護政策の決定過程を学び、看護界の直面している問題および改善するための道筋を明らかにする。
到達目標	1．現状を変革するための戦略・戦術、変革のプロセスを理解し、患者ケア提供システムの改善策などについて検討できる。 2．保健医療の質保証に関するシステムおよびリスクマネジメントの実際を知る。 3．看護政策の人材育成・キャリア開発への効果的なサポートシステムを提言できる。

回数	授業内容及び計画	担当者名	授業方法
	《看護管理》		
第1回	保健医療福祉制度改革の現状と看護職の直面する課題の明確化	宮里	講義
第2回	保健医療提供組織の特徴：法的根拠、看護組織のしくみ、専門職の連携	未定	講義
第3回	組織行動の考え方：組織の中の個人、モチベーション、コミットメント	宮城	講義
第4回	変革の時代における看護専門職のリーダーシップ	宮城	講義
第5回	看護専門職の役割拡大と責務の範囲	宮里	講義
第6回	医療における質保証	翁長	講義
第7回	病院における医療安全管理の実際：リスクマネージャーの役割	饒平名	講義
第8回	直面している看護管理上の課題と改善策（報告：一人あたり10分）	宮里	講義
	《看護政策》		
第9回	看護政策と政策決定過程	田村	講義
第10回	医療提供体制の改革と課題	田村	講義
第11回	保健師助産師看護師法と看護職者の責務、課題	田村	講義
第12回	看護職員の需給と確保	田村	講義
第13回	看護職者の資質向上に向けた政策の変遷と課題	田村	講義
第14回	看護の国際化とわが国の課題	田村	講義
第15回	政策課題（報告：一人あたり15分）	田村	講義
第16回	看護専門職に必要な政策力（まとめ）	田村	講義

テキスト	・「看護管理学習テキスト」①②③別巻　日本看護協会出版会 ・田村やよひ．（2015）．私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法　第2版．日本看護協会出版会． その他、事前に必読文献を提示する。
参考文献	・日本看護協会．（2007）．看護業務基準2007改訂版．日本看護協会出版会 ・中西睦子（編）（2013）．看護サービス管理　第4版．医学書院． ・見藤隆子他．（2007）．看護職のための政策過程入門．日本看護協会出版会 ・日本看護協会編．（2010）．日本看護協会の政策提言活動．日本看護協会出版会．
成績評価の方法	評価は講義への出席状況と参加姿勢およびレポート等を総合して行う。

科　目 コード	53230	授業 科目	実践臨床薬理学 Practical Clinical Pharmacology	担当 教員	○植田真一郎（非常勤） 糸嶺達（非常勤） 赤嶺伊都子

開講年次	博士前期課程 １～２年次	単位数	２単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選択	時間数	３０時間				

授業概要	薬剤と生体との相互作用および、薬剤の基本的な作用機序を理解し、急性期や慢性疾患の患者、妊婦・授乳中の女性、小児から高齢者まで、各対象別に処方されている薬剤についての症状緩和や薬物の使用・中止の判断と、服薬管理能力を高めるための指導に必要な基礎知識を学ぶ。さらに、薬物治療を受けながら療養している患者の症状緩和、モニタリングおよび疾病の回復への支援について学習する
到達目標	１．薬剤と生体との相互作用が説明できる。 ２．薬剤の体内での吸収、分布、代謝、排泄の機序が説明できる。 ３．薬剤の基本的な使用方法について、病態時の特徴を含め説明できる。 ４．在宅療養者に投与されることの多い薬剤について、作用機序、副反応、投与方法が説明できる。 ５．医療資源の乏しい地域の住民が、在宅で服用している薬剤の服用方法や管理等について、当該住民が理解し、実践できるよう指導ができる。 ６．妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能障害を有する人の服薬についてモニタリングし、危険の可能性が判断でき、必要時服薬中止し主治医に連絡するよう助言することができる。 ７．薬剤の主な副反応についてアセスメントし対処法を説明できる。 ８．薬剤の多剤服用および食品等との併用時の禁忌について説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
第１・２回	薬理学の基礎（薬物動態学、薬物代謝）	植田 （医師）	講義
第３・４回	薬剤の処方・変更における医師の判断過程 薬剤の基本的な使用方法および病態時の特徴		
第５・６回	慢性疾患・在宅療養者に投与されることの多い薬剤		
第７・８回	主な薬剤、作用機序、副反応、投与方法等、薬剤効果（臓器別、効能別等） 特殊な条件にある人の薬剤使用の特徴		
第９・10回	妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能・肝機能障害を有する人等 薬剤の多剤服用および食品等との併用禁忌 副反応のアセスメントと対処法		
第11・12回	多剤服用の事例、特殊な条件下にある事例の服薬使用の特徴 ・事例検討を通して服薬使用の特徴、留意点を理解する。 妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能障害・肝機能障害をもつ患者など		
第13・14回	服薬の製剤・調剤・保管、変質の管理について	糸嶺達 （薬剤師）	講義
15回	服薬指導が必要な事例（薬剤の必要性、服用上の留意点、指導） ・事例検討を通して服薬指導のアセスメントと指導の実際を体験する。 服薬が遵守できない事例、服薬確認が困難な事例、薬剤の自己管理ができない事例など	赤嶺	講義 討議

テキスト	デービット・Ｅ．ゴーラン他、日本語版監修、清野裕（2005/2006）、ハーバード大学テキスト、病態生理に基づく臨床薬理学、メディカル・サイエンス・インターナショナル その他：随時資料を配付する。
参考文献	随時参考文献などを紹介する。
成績評価の方法	授業参加態度（ディスカッション等の参加状況）、事例検討レポートを総合して評価する。
備　考	事前学習としてハーバード大学のテキストの各単元を熟読して授業に参加する。

科　目 コード	53240	授業 科目	実践ヘルスアセスメント Practical Health Assessment	担当 教員	○上原和代、 謝花小百合、佐伯宣久 非常勤講師: 伊藤智美、砂川長彦 林成峰、外間実裕 山内豊明、徳田安春

開講年次	博士前期課程 1 ~2 年次	単位数	2 単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選択	時間数	45 時間				演習

授業概要	小児から高齢者までの各ライフサイクルに特有なアセスメントの特徴を理解し、クリティカルシンキングをベースにした包括的なアセスメント能力を養うためのヘルスアセスメントの知識・技術・技能を学び、実践で活用できるようにする。
到達目標	1. 対象理解に基づく適切なヘルスアセスメントを実施できる。 2. ライフサイクル各期に特有のアセスメントの特徴を述べることができる。 3. アセスメント技術を通して、正常・異常を包括的に判断し説明できる。 4. 実践で活用できるフィジカルアセスメントが実施できる。

回数	授業内容及び計画	担当者	授業方法
第 1 回	はじめに：授業ガイダンス ヘルスアセスメントに必要な技術の確認 　シミュレーターを用いたベースライン・テスト	上原・謝花	講義・演習
第 2・3 回	面接・健康歴聴取、身体診察の技法と看護師の行う臨床推論 頭頚部のヘルスアセスメント	上原・謝花	
第 4・5 回	専門看護師に必要なヘルスアセスメント	伊　藤 （専門看護師）	
第 6・7 回	呼吸器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	徳　田（医師）	
第 8・9 回	循環器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	砂　川（医師）	
第 10・11 回	消化器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	林　（医師）	
第 12 回	腎・泌尿器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	外　間（医師）	
第 13-14 回	感覚・神経系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開	山　内 （医師/ 看護師）	
第 15-16 回	筋・骨格器系のヘルスアセスメント、事例をもとにした看護展開		
第 17 回	乳幼児のヘルスアセスメントと看護展開	上原・佐伯	
第 18・19 回	急変時のヘルスアセスメントと看護展開	徳　田（医師）	
第 20・21 回	臨床事例を用いたヘルスアセスメントの実際 　シミュレーター用いたケース別ヘルスアセスメントの実際	伊　藤 （専門看護師）	
第 22・23 回	ヘルスアセスメントに必要な技術の確認	上原・謝花	

	シミュレーターを用いた到達度テスト まとめ：看護師の行うヘルスアセスメントの特徴と実践への活用 レポート課題の報告、ディスカッション		
テキスト	山内豊明訳(2015)、ベイツ診療法ポケットガイド　第２版、メディカル・サイエンス・インターナショナル　　＊最新版を購入してください。		
参考文献	1. Lynn S.Bickly, 福井次矢, 井部俊子(2015), ベイツ診療法　第 2 版　Bates' Guide to Physical Examination and History Taking　11th Edition, メディカル･サイエンス･インターナショナル, 東京. 2.中木高夫（翻訳)、山内豊明（翻訳）(1998)：ヘルスフィジカルアセスメント（上下巻)、日総研出版 3.Wolters Kluwer(2011) 、 NURSING HEALTH ASSESSMENT, A Best Practice Approach,Lippincott Williams & Wilkins.		
成績評価の方法	1. 授業の初回と最終回に行う、シミュレーターを用いた技術試験（15%） 2. 各回の授業への参加度（10%）、臨床推論やディスカッションの内容（30%） 3. 課外の時間で小児、成人、高齢者へのヘルスアセスメントを実施し、レポートを作成する（各事例10%、計30%）。 4. 最終日の事例の報告とディスカッション（15%） ＊レポート作成時は事例の個人情報保護に十分留意すること。また、事例の健康状態に指定はありません。 ＊遅刻・欠席・早退、倫理的に問題のある行動等は減点となります。		
備　考	・テキストは参考文献１の簡易版となっています。参考文献１は図書館から借り出して予習・復習に利用してください。 ・第 6～16 回は、講師による部位別あるいは対象別に特徴的な機能のアセスメント･診察技法･検査結果の読み方などの解説、看護でよく用いるヘルスアセスメントの技法の実践(学生同士あるいはシミュレーターを用いて)、事例のヘルスアセスメントを元にした看護展開、で構成します。 ・学内で開講される際はユニフォーム（勤務先のものでよい）を着用してください。 ・聴診器、ペンライト、定規などフィジカルアセスメントに必要な物品を持参してください。 ・事前学習として、テキストの各単元を熟読し、病態生理を復習しておきましょう。 ・事前に、担当教員と履修生のメールでの連絡網を作成します。非常勤講師の都合により日程変更となる場合がありますので随時、メールでの連絡をします。 ・レポート課題は最終回にて提出となります。開講期間の前半に取り組むと授業内容の理解が深まります。		

科目コード	53250	授業科目	実践臨床病態生理学 Practical Clinical Pathophysiology	担当教員	○佐伯宣久、宮里智子 非常勤講師（予定）

開講年次	博士前期課程 １～2年次	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講　義
選択必修	選択	時間数	30時間				

授業概要	病態の成因を細胞、組織、遺伝子レベルから学習し、さらに先天性異常・循環器疾患・炎症・腫瘍など領域別による疾患や障害の成因を理解し、診断や治療方針について学習する。 学習した病態生理の知識を活用し、エビデンスに基づいた臨床判断能力を養うための技法を修得する。
到達目標	1. 疾患の発生・進展・治癒のメカニズムを生理学的視点から理解できるようにする。 2. 各疾患の病態生理に基づき、検査・診断・治療方針などを理解できるようにする。 3. 医療現場において、常に疾患の病態生理を念頭におきながら臨床判断と看護展開を行うことができるよう、その方法論的基礎を修得する。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名	授業方法
授業番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 １０ １１ １２ １３ １４ １５	病態生理学総論・血液凝固異常の病態生理学 血液疾患の病態生理学 運動器疾患の病態生理学 循環器疾患の病態生理学 内分泌・代謝疾患の病態生理学 腎疾患の病態生理学 感染症・免疫異常の病態生理学 先天異常の病態生理学 消化器疾患の病態生理学（１） 消化器疾患の病態生理学（２） 神経疾患の病態生理学（１） 神経疾患の病態生理学（２） 呼吸器疾患の病態生理学 病態生理と看護展開（１） 病態生理と看護展開（２） ・授業の日程については別途配布する。	佐伯 非常勤講師 宮　里 〃	講義・討論

テキスト	特に指定しない
参考文献	矢崎義雄　総編集：内科学　第10版，　朝倉書店　2013 医療情報科学研究所　編集：病気がみえる Vol. 1－9，メディックメディア 御手洗玄洋 総監訳：ガイトン生理学　原著第11版，　エルゼビアジャパン　2010
成績評価の方法	授業参加状況、レポート、プレゼンテーションなどで評価する。
備　考	本科目では、講師による講義に加え、講師と受講生による討論を重視したいと考えている。 授業の事前準備として各自以下のことを行い、活発な討論をお願いしたい。 ・講義のテーマについて標準的な教科書などを読む。 ・講義のテーマに関する学術的な疑問や医療現場で生じた疑問があれば整理しておく。

科　目 コード	53260	授業 科目	医療の質保証と安全管理 Guarentey for Quality of Medical Heath Care and Safty Management	担当 教員	○未定

開講年次	博士前期課程１～2 年次	単位数	2 単位	科目 分類	専攻分野共通科目	授業 形態	講義
選択必修	選択（領域必修）	時間数	30 時間				

授業概要	質の高い医療、ケア提供のための医療倫理、医療安全の基本や体系的取り組み、リスクマネジメントの理論を学ぶ。また　ケーススタディをとおしてプライマリ・ヘルス・ケアナースプラクティショナー(NP)として医療の質保証と評価、安全管理とリスクマネジメントに対応できる能力を養う。
到達目標	１．質の定義について説明できる。 ２．安全管理とリスクマネジメントの理論が説明できる。 ３．医療倫理を基盤とし、医療の質保証と医療安全（安全管理）の観点からプライマリ・ケア NP としての質の高い看護実践と評価、安全管理について思考し述べることができる。 ４．自己のリスクマネジメントについて思考し述べることができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第１回	オリエンテーション　医療倫理４原則	未定
第２回	質の定義、概念的探究	
第３回	質の定義　実証調査研究	
第４回	評価のための基本的な方法	
第５回	医療の質と評価	
第６回	看護サービスの質と評価、 クリティカルパス（医療の標準化）	
第７回	第３者評価としての病院機能評価（日本）とＪＣＩ（Joint Commission International）枠組み、指標項目	
第８回	医療の質管理の手法：TQM	
第９回	安全管理とリスクマネジメント	
第 10～14 回	ケーススタディ 次のキーワードをポイントにする。 構造・過程・結果 技術要素、療養環境（診療環境）・安全管理 薬剤管理 チームケアと多職種連携 情報管理と個人情報保護 コミュニケーション 自己のリスクマネジメント（セルフマネジメント） （ケースは、授業で提示）	
第 15 回	プレゼンテーション ライマリ・ヘルス・ケア NP としての医療の質保証 プライマリ・ヘルス・ケアの「質保証のための行動」モデル	

テキスト	資料配布
参考文献	医療倫理・医療の質の定義と評価方法　健康評価機構 井部俊子　中西睦子監修　看護管理学習テキスト「看護マネジメント論」日本看護協会出版会
成績評価の方法	授業参加とレポートとプレゼンテーションにより評価する。
備　考	事前に必読文献を提示する。 授業は、講義とケーススタディ

※奇数年度（西暦）開講

科目コード	53281	授業科目	質的研究方法論 Qualitative Research	担当教員	○ 未定 長谷川美貴（非常勤講師）

開講年次	博士前期課程 1年次前後期	単位数	2単位	科目分類	共通科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30 時間				

授業概要	保健看護分野において質的研究を実施するための基礎知識・技法を学修する。そのため、先ず質的研究の一連のプロセスを学習し、次に幾つかの代表的な研究方法を詳しくみていく。さらに、インタビュー、（参与）観察といった基本の技法を演習形式で学ぶ。データ分析についても、実際に行われた研究プロジェクトのトランスクリプトを用い、コーディングやカテゴリー化の演習を実施する。
到達目標	1　質的研究が量的研究とどのように異なるかを述べることができる。 2　研究の課題・問いに応じて適切な研究方法を選ぶことができる。 3　質的研究の信頼性・妥当性について述べることができる。 4　インタビューや観察といった基本的な技法を用いることができる。 5　コーディングやカテゴリー化を通して初歩的なデータ分析を行うことができる。

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第１回	イントロダクション：質的研究とは―定義、特徴、研究法の種類―	未定
第２回	質的研究のプロセス①：問いの設定、文献収集・検討、研究のデザイン、協力者のサンプリング、フィールドへのアクセス	長谷川美貴
第３回	質的研究のプロセス②：データの作成、インタビュー・観察・記録の種類、データの分析、論文の執筆	〃
第４回	質的研究における信頼性・妥当性について	〃
第５回	様々な研究方法①：「質的記述的研究」と「グラウンディド・セオリー」	〃
第６回	様々な研究方法②：「エスノグラフィー」と「現象学」	〃
第７回	様々な研究方法③：「事例研究」と「アクション・リサーチ」	〃
第８回	インタビューと（参与）観察の仕方	〃
第９回	インタビューの演習	〃
第10回	（参与）観察の演習	〃
第11回	インタビューと（参与）観察の演習へのフィードバック	〃
第12回	実際のプロジェクトから学ぶ①：コーディングの仕方と演習	〃
第13回	実際のプロジェクトから学ぶ②：演習の続き	〃
第14回	実際のプロジェクトから学ぶ③：演習へのフィードバック	〃
第15回	コーディングから論文へ　　総括	長谷川・未定

テキスト	グレッグ美鈴・他（編著）.(2016).よくわかる質的研究の進め方・まとめ方,看護研究のエキスパートをめざして，第2版，医歯薬出版 ＊随所で補助教材を使用し、様々な研究方法の学習にあたってはサンプル論文を用いる。
参考文献	必要に応じて随時紹介する。
成績評価の方法	出席、講義への参加状況、演習への取り組みなどを総合して評価する。
備考	

博士後期課程

科目コード	61111	授業科目	保健看護管理・教育特論Ⅱ Nursing and Health Administration and Education　Theory　Ⅱ	担当教員	○嘉手苅英子 勝原裕美子（非常勤）
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選　択(領域必修)	時間数	30時間				
授業概要	保健看護サービスシステムの現状とヘルスニードについて分析し、組織行動論、変革理論等を活用して保健看護管理に関する政策を分析・評価する力を養う。さらに、高度看護実践に対応するために、保健看護管理領域の新たな役割・機能を開拓する。 看護基礎教育および看護継続教育の歴史的変遷及び今日的問題について、諸外国との比較において我国の特徴を学ぶ。さらに、看護教育実践の土台となる弁証法及び認識論について具体例を取り上げながら学ぶ。				
到達目標	1．保健看護システムやマネジメント・リーダーシップ理論について保健政策との関連で分析する。 2．保健看護管理に関するマネジメント・リーダーシップの概念を統合する。 3．わが国における看護教育の特徴を諸外国との比較において論述できる。 4．看護継続教育の現状を社会背景との関連について論述できる。 5．看護教育実践の土台となる弁証法および認識論と実践の関連について説明できる。				

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	ヘルスニードの優先度決定；看護管理の理論と実践の適用。	非常勤（未定）
第2回	ヘルスニードの分析（諸理論の活用）	非常勤（未定）
第3回	倫理的な管理行動に関する諸理論	非常勤（勝原）
第4回	保健看護管理領域における役割・機能の拡大	〃
第5回	保健看護管理に関する政策の分析・評価	非常勤（未定）
第6回	保健看護管理政策に関するマネジメント・リーダーシップ	非常勤（未定）
第7回	保健看護管理の情報に関するネットワーク	非常勤（勝原）
第8回	我が国の教育制度の特徴と看護教育	嘉手苅英子
第9回	〃	〃
第10回	我が国の看護教育制度の変遷と現在	〃
第11回	諸外国における看護教育制度	〃
第12回	看護継続教育の現状と課題	〃
第13回	看護教育実践の土台となる弁証法および認識論と実践との関連	〃
第14回	〃	〃
第15回	総括	嘉手苅／未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	適宜、指定する
成績評価の方法	評価は講義への参加姿勢およびレポート等を総合して行う。
備考	講義はゼミ形式で行い、授業内容の順序や時間配分は，参加者の背景や理解状況に応じて適宜調整しながら進める。それぞれのテーマについて、あらかじめ提示された資料及び検索した文献を読んで参加し、発表、討議を通して理解を深める。

科　目 コード	61121	授業 科目	保健看護管理・教育特別研究Ⅱ Nursing and Health Administration and Education Special Study Ⅱ	担当 教員	◎嘉手苅英子 宮里智子

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択・必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	保健看護管理・教育領域における研究課題について取り組み、学位論文を形成するプロセスを通して看護学研究方法論を修得すると共に、看護学の発展に寄与する保健看護教育論を探究する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	嘉手苅英子 宮里智子
3年次	10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	61211	授業科目	地域・精神保健看護特論Ⅱ Community and Mental Health and Psychiatric Nursing Theory Ⅱ	担当教員	○川崎道子、大湾明美

開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	精神保健医療福祉の基礎的知識を持ち、多様な地域と文化の中における精神保健の現状把握・問題発見・解決・精神健康の維持促進等についての課題を分析評価する能力を養う。また、実践の場や教育・研究において、自立して優れた看護実践の指導的な立場に立てる人材の育成および広く学際的な知識を持つ研究者・教育者を育てる。また、地域保健看護領域の現状より課題を把握し研究的視点で分析できるなど研究者としての視点を身につける。
到達目標	1. 日本・世界各国の精神保健看護の現況を把握し、精神保健看護が直面する今日的課題を広く深く認識し、課題解決に応用できる理論や実践方法について学び、検討を深めることができる。 2. 精神保健看護領域における学問的な進歩を常に敏感に捉え、最新の理論や治療方法などの状況を把握し、その中で精神看護に応用出来る知識・方法・技術の実践可能性を吟味し習得する。 3. 精神保健看護に必要な最新の研究方法を常に学び、応用できる能力を養う。 4. 地域保健看護活動における健康課題解決を活動方法、施策化、地区組織育成の視点から分析し成功要因を記述できる。 5. 4を踏まえて地域保健看護領域の研究の動向を活動方法などの視点から整理し、研究Ⅱへ繋ぐことができる。 6. 地域保健看護活動、研究活動上の倫理的問題を理解し実践に繋ぐことができる。

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第1～3回	日本・沖縄・世界各国の精神保健看護の現状と問題点の分析	川崎道子 大湾明美
第4～6回	精神保健看護関連領域の研究の最新の情報について	
第7回	精神保健看護と社会・文化的・倫理的問題	
第8～10回	日本・沖縄・諸外国の地域保健看護活動の現状と課題の分析	
第11～13回	地域保健看護領域の研究の動向について	
第14回	地域保健看護活動における倫理的問題	
第15回	まとめ	

テキスト	講義開始時に提示する。
参考文献	随時資料・文献を用いて行う。
成績評価の方法	評価は、授業への参加状況と発言・討論内容・授業態度・レポート・テスト等を統合して行う。
備考	

科　目 コード	61221	授業 科目	地域・精神保健看護特別研究Ⅱ Community snd Mental Health and Psychiatric Nursing Special Study Ⅱ	担当 教員	◎川崎道子 大湾明美

開講年次	博士後期課程 1～３年次	単位数	８単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（領域必修）	時間数	240 時間				

授業概要	地域及び精神保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析し、考察して論文を完成し、自立した研究者となることを学習する。あるいは卓越した実践者として必要なコンピテンシーを探究し、地域で学際的アプローチをとれ、リーダーシップを発揮できるとともに、地域保健看護における問題解決および支援方法を実証的に探究する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
１年次	４月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析 ３年次 11 月（5 月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12 月（6 月） 博士論文 第１稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ １月（7 月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ ２月（8 月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 ３月（9 月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	川崎道子 大湾明美

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ、文献・資料を紹介し検討する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	61410	授業科目	母性・小児保健看護特論Ⅱ Maternal and Child Health Nursing Theory Ⅱ	担当教員	○未定 （母性） 未定 （小児）		
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選 択（領域必修）	時間数	30時間				
授業概要	乳幼児・子ども・青少年、妊産婦、女性とその家族が一般に経験する健康問題を検証するために正常な生涯発達・家族発達の理解を基礎におく。文献検討により、上記対象の健康信念、健康行動、包括的保健看護ケアシステムに焦点を当てる。小児と家族問題および女性問題の研究、問題解決の評価、健康に関する生涯発達的および生態学的観点の統合を通して看護理論の発達を考える。						
到達目標	1. 小児、妊産婦および一般女性における健康問題に気づくことができる。 2. 上記の健康問題を包括的に分析できる。 3. 適切なケアマネジメントプログラムに可能な看護支援を統合できる。 4. いくつかの選択的健康問題に関する研究アプローチを特定できる。 5. 発達理論を健康の維持・増進・回復と結びつけることができる。						

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	母性の心理	未定
第2回	母親役割の獲得/母子関係の成立①	（母性）
第3回	母親役割の獲得/母子関係の成立②	（小児）
第4回	母子関係に関する実験的研究	
第5回	家族とは何か	
第6回	子どもと家族①	
第7回	子ども虐待と家族②	
第8回	母子関係の障害	
第9回	子どもと家族の健康問題解決に応用可能な生涯発達的および生態学的理論①	
第10回	子どもと家族の健康問題解決に応用可能な生涯発達的および生態学的理論②	
第11回	子どもの養育が困難な家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第12回	急性期及びターミナル期にある子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第13回	慢性疾患を有する子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第14回	障害を有する子どもと家族に対する保健看護サービスプログラムの評価と理論化	
第15回	まとめ	

テキスト	Hockenberry & Wilson eds.Wong's Nursing Care of Infants and Children. 9th .Mosby,2010 他
参考文献	参考書、文献等は別途指示する。
成績評価の方法	評価は授業への参加など及び課題に関するレポート、プレゼンテーションの内容に基づいて行なう。
備考	事例検討、文献抄読などはゼミ形式で行なう。

科　目 コード	61420	授業 科目	母性・小児保健看護特別研究Ⅱ Mother and Child　Health Nursing Special Study　Ⅱ	担当 教員	◎未定（母性） ◎未定（小児）

開講年次	博士後期課程 1～3 年次	単位数	8 単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（領域必修）	時間数	240 時間				

授業概要	母性・小児保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集・分析し、結果を考察して論文を完成し、自立した研究者となることを学習する。あるいは高度な実践能力を修得し、卓越した実践家として必要なコンピテンシーを探究し、専門領域で学際的アプローチをとれ、リーダーシップを発揮できるとともに、疾病の有無にかかわりなく子ども及び母親のおかれた状況、健康上の問題、支援方策を実証的に探究する。
到達目標	1. 専門領域において、最新で意義のある研究課題を設定できる。 2. 研究課題に関する文献を探索でき、統合できる。 3. 研究課題に適した最新の研究方法・分析方法を選択し、実施できる。 4. 結果を母子保健看護の視点から広く深く考察できる。 5. オリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 6. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理観や倫理的態度を身につけることができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1 年次

科　目 コード	61510	授業 科目	成人・老年保健看護特論Ⅱ Adult and Geriatric Health Nursing Theory Ⅱ	担当 教員	○神里 みどり 大湾 明美 山本 敬子
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論
選択必修	選　択（分野必修）	時間数	30時間	授業 形態	講義
授業概要	成人・老年保健看護領域における実践・教育・研究の現状を幅広く概観し、そこから課題を明確にしながら、課題を分析して問題解決できるような研究・教育指導者としての能力を養う。さらに、成人・老年保健看護の中心的概念や理論の基礎的な知識を修得しながら、それらを実践・教育・研究へと導入できる能力、発展的で学術的な視点について修得できる能力を養う。				
到達目標	1．成人・老年保健看護領域における国内外の現状を把握し問題点を導くことができる。 2．それらの問題点を改善するための方略について検討することができる。 3．成人・老年保健看護領域において活用されている概念や理論と実践・教育・研究への応用可能性について述べることができる。 4．臨床現場で活用できるような保健看護援助やケアシステムの開発について検討できる。				

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1・2回	成人保健看護領域における実践・教育・研究の動向(国内)とその多角的検討･分析	神里・山本
第3・4回	成人保健看護領域における実践・教育・研究の動向とその多角的検討・分析(国外)	神里・山本
第5・6回	成人保健看護における中心的概念および理論の文献的検討	神里・山本
第7回	EBNに基づいた保健看護援助の開発やケアシステムの構築についての検討	神里・山本
第8・9回	老年保健看護領域における実践・教育・研究の動向(国内)とその多角的検討･分析	大湾
第10・11回	老年保健看護領域における実践・教育・研究の動向とその多角的検討・分析(国外)	大湾
第12・13回	老年保健看護における中心的概念および理論の文献的検討	大湾
第14回	EBNに基づいた保健看護援助の開発やケアシステムの構築についての検討	大湾
第15回	まとめ	神里・大湾・山本

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	評価は授業への参加態度や討論、プレゼンテーションや課題レポートを総合して行う。
備　考	最新の文献や資料、テキスト等を使用しながらゼミナール方式で授業を進める。

科　目 コード	61520	授業 科目	成人・老年保健看護特別研究Ⅱ Adult and Geriatric Health Nursing Special Study Ⅱ	担当 教員	◎神里みどり ◎大湾明美 田場由紀、謝花小百合

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択・必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	成人・老年保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成し自立した研究者となることを学習する。あるいは卓越した実践者としてのコンピテンシーを探索し、専門領域で学際的アプローチをとれ、リーダーシップを発揮できるとともに、問題解決および支援方法を実証的に探求することを学ぶ。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	神里みどり 大湾明美 田場由紀 謝花小百合
3年次	11月（5月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。（←該当する科目のみ記入）

科　目 コード	61610	授業 科目	新領域保健看護特論Ⅱ New Challenges in Nursing Health Theory Ⅱ		担当 教員	○金城 芳秀 神里 みどり	
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選　択（分野必修）	時間数	30時間				

授業概要	The lack of nurse specialists is one of the serious issues in medical care and health fields. It is an international issue to maintain quality of nurses because it improves or declines since nurses and assistants move across the countries. Considers the problem solution grounded on existing theory through setting up the new research theme through Japanese and foreign literatures and materials on various problems in all of nursing fields. Considers the current practical problem solution and develops the theory based on actual materials.
到達目標	1. To critically examine models in nursing education that include the integration of practice, education and research. 2. To examine the impact of the diverse nursing education student population and the importance of cross cultural communication 3. To demonstrate and understanding of the diversity of the patient populations and the challenge of cultural safety for consumer satisfaction in health care 4. Critically evaluate the role of supervision and mentors in the development of the expert practitioner 5. Critically analyze quality issues in health care - consumer satisfaction surveys and consumer complaint procedures 6. Critically examine theories of change and develop strategies for successful change activities 7. Critically examine models of nursing service delivery 8. Critically examine ethical theories and articulate the advocacy role of the nurse 9. Critically examine issues that are confronting the nursing profession worldwide related to recruitment and retention of nurses 10. Examine models of successful nurse entrepreneurs internationally

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	Nursing Practice, Nursing Education and Nursing Research integration for the development of the relevant highly skilled practitioner	神里 金城
第2回	Change theory and the issues challenging nursing	
第3回	Nursing and the global village	
第4回	The cultural diversity inherent in nursing students and in nursing service delivery populations	
第5回	The availability of the highly skilled nurse - recruitment and retention of nurses worldwide.	
第6回	Mentorship and leadership	
第7回	Career planning	
第8回	Succession planning	
第9回	Balancing the equation - quality of nursing service delivery, the ratio of nurse to patient, and the quality of health outcomes for patients	
第10回	Socio-political awareness and the formation of relevant health care policy	
第11回	Quality issues in health care - the sophisticated health care consumer	
第12回	Measurement of Quality	
第13回	Emergent opportunities for nurse practitioners e.g. diabetes, cardio-vascular disorders	
第14回	Ethics in health care - the challenge related to increasing ethical dimensions in decision making	
第15回	Nurse Entrepreneurs in private practice	

テキスト	
参考文献	
成績評価の方法	Student's presentation and discussion, report, attendance.
備　考	

科　目 コード	61620	授業 科目	新領域保健看護特別研究Ⅱ New Challenges in Nursing　Health Special Study　Ⅱ	担当 教員	◎神里 みどり ◎金城 芳秀 謝花小百合

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（領域必修）	時間数	240時間				

授業概要	新領域保健看護領域において院生自ら研究課題を設定し、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析し、考察して論文を完成し、自立した研究者となることを学習する。また、保健看護における新しい役割創設のために、卓越した実践者として必要なコンピテンシーを特定し、その修得方法を探究する。特に保健看護情報と看護実践および看護教育との関係を探究する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	神里 金城 謝花
3年次	11月（5月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	61910	授業科目	島嶼保健看護特論Ⅱ (Island Health Nursing Theory Ⅱ)	担当教員	○大湾　明美 神里　みどり

開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				

授業概要	島嶼地区の健康問題と健康生活上の課題について、地理的、歴史的、文化的、またそれに規定される生活様式の面から分析・検討方法について論じる。
到達目標	1. 島嶼保健看護領域における国内外の現状を把握し問題点をみいだすことができる。 2. 問題点に関して改善するための方略について検討することができる。 3. 島嶼保健看護の概念を理解し、島嶼における実践・教育・研究課題を論じることができる。

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1・2回	オリエンテーション・島嶼における健康問題	大湾・神里
第3・4回	島嶼における看護職の活動の現状と課題	大湾・神里
第5・6回	島嶼における文化と看護活動	大湾・神里
第7・8回	島嶼における遠隔教育とテレナーシングケア	大湾・神里
第9・10回	島嶼における健康問題解決の方法	大湾・神里
第11～13回	島嶼に関する国内外の看護研究の現状	大湾・神里
第14・15回	島嶼に関する国内外の看護教育の現状	大湾・神里

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	随時参考資料を配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(40%)とレポートの内容(60%)で評価を行う。
備考	本大学または、宮古島サテライト教室にて、土曜日・日曜日に開講する。

科　目 コード	61920	授業 科目	島嶼保健看護特別研究Ⅱ Island Health Nursing Special Study Ⅱ	担当 教員	◎大湾明美 ◎神里みどり ◎川崎道子

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択・必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	島嶼地区の健康問題ならびに健康生活支援上の問題について、島嶼の特性の観点及び、国内外の島嶼看護に関する研究成果等を用いて分析研究し、島嶼看護学的に考察し、研究論文を作成する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析 11月（5月）仮テーマの提出 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	大湾明美 神里みどり 川崎道子
3年次		

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。

科目コード	62110	授業科目	継続保健看護教育Ⅱ Continuing Education in Nursing and HealthⅡ	担当教員	○嘉手苅英子 宮里智子 舟島なをみ(非常勤) 非常勤

開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	コア科目	授業形態	講　義
選択必修	選　択	時間数	30　時間				

講義概要	看護基礎教育課程から卒後の継続教育に至る看護生涯教育の現状と課題の理解を前提に、看護専門職のキャリア開発と看護生涯教育への支援システムの構築について教授する
到達目標	1 看護における専門分化の方向性とエキスパート・ナース育成の必要性について説明できる。 2 看護専門職のキャリア開発と看護生涯教育への支援システムについて考察できる。 3 看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯学習の現況と課題について理解を深める。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	「継続保健看護教育Ⅱ」の導入、学習課題の共有	嘉手苅
第2回	看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯教育の現状と課題	宮　里
第3回	看護職者の生涯学習ニーズとその支援システム	非常勤（未定）
第4回	人間のライフサイクルとキャリアサイクル	
第5回	人間の成熟過程と看護専門職者のキャリア開発	宮　里
第6回	同	
第7回	研究（文献）からみた看護職者のキャリアの実態と課題	宮　里
第8回	同	
第9回	エキスパートナース（専門看護師、認定看護師）育成の現状と課題	嘉手苅
第10回	同	
第11回	看護における専門分化とその方向性（米国の動向との比較）	嘉手苅
第12回	同	
第13回	研究からみた看護継続教育の課題	舟島なをみ
第14回	同	
第15回	総括	嘉手苅 宮　里

テキスト	指定はない。関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	初回講義で紹介する
成績評価の方法	講義への参加状況（討議への参加、プレゼンテーション）、レポート
備　考	授業は院生のプレゼンテーション・討議を中心に進める。

科　目 コード	62121	授業 科目	保健看護と研究Ⅱ (研究デザイン編) Health Nursing ResearchⅡ (Reserch design)	担当 教員	○神里 みどり 前田　和子(非常勤) 玉城　清子(非常勤)

開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	この科目は保健看護と研究Ⅰで研究の基礎を学んだ後に履修するオムニバス科目である。この科目では博士論文の研究計画を書くために必要な基本的知識を学ぶ。量的研究、質的研究、混合研究法をデザインしていく際に必要となる概念枠組み、研究プロセスとそのアプローチについて、必要な基本的知識を学ぶ。
到達目標	1.研究計画をデザインする際に必要な基本知識を、学生自身の修士論文を材料に説明できる。 2.博士論文の研究計画を書き上げるまでのプロセスに必要な基本的知識を説明できる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	オリエンテーション、 研究デザイン デザインの枠組み①	神里 前田
第2回	デザインの枠組み②	前田
第3回	文献レビュー① ゲストスピーカー：私の戦略	神里
第4回	文献レビュー②	神里
第5回	執筆作戦と倫理的配慮	前田
第6回	序論について	前田
第7回	目的の言明	前田
第8回	研究上の問いと仮説	前田
第9回	理論の活用	神里
第10回	定義、限界、意義	神里
第11回	量的研究法の研究計画	玉城
第12回	質的研究法の研究計画	神里
第13回	混合研究法の研究計画	神里
第14回	看護学発展のための研究①	非常勤
第15回	看護学発展のための研究②	非常勤

テキスト	John W. Creswell. (2003/2007). 操華子, 森岡崇（訳）, 研究デザイン. 日本看護協会出版会.
参考文献	・J.W.クレスウェル他著、大谷順子訳：人間科学のための混合研究法.北大路書房.2010 ・ビヴァリー M. ヘンリー著・上田礼子監訳: 看護研究ハンドブック. 医学書院、2004 ・キャロル・ガービッチ著, 上田礼子他訳: 保健医療職のための質的研究入門. 医学書院、2003 ・D. F. Polit & C.T.Beck (2004/2011). 近藤潤子（監訳), 看護研究　原理と方法. 医学書院. ・澤田昭夫著 その他、適宜、参考文献、課題文献等を示します。
成績評価の方法	・出席状況、事前準備（課題レポート含む)、授業への貢献度から目標 1,2 の達成度を評価（前田） ・学生の出席、パフォーマンス、プロセス、学習成果を総合的に評価します。

備　考	・集中講義で行いますが、都合により講義の順序は入れ替わることがあります。 ・すべての授業に出席し、活発に参加することが求められます。 ・授業は講義、PBL、ゼミナール形式など多様な方法で行います。 ・学生のチームワーク、創造性、革新性が強く期待されます。

科　目 コード	62122	授業科目	保健看護と研究Ⅱ(執筆編) Health Nursing ResearchⅡ (Writing)	担当教員	○神里　みどり 前田　和子(非常勤)　他

開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	必修科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	博士論文を執筆するための基盤となる方略を学修し、質の高い論文作成の実際について学ぶ。
到達目標	1. 研究論文の基盤となる論文構成について述べることができる。 2. 研究論文のアウトラインが記述できる。 3. 質の高い研究論文について吟味できる。 4. 研究論文の概要を記載することができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	オリエンテーション 論文の構成	神里
第2回	文献レビューの実際・統合・文献マップの作成	神里
第3・4回	研究目的・研究設問・理論的枠組の作成	前田
第5・6回	研究方法とその手順の実際	神里
第7・8回	結果の書き方	神里
第9・10回	考察の書き方	神里
第11・12回	博士論文の具体的な展開例：邦文2件以上	前田
第13・14回	博士論文の具体的な展開例：英文2件以上	前田
第15回	看護学発展のための研究	非常勤

テキスト	澤田昭夫(2015)論文の書き方　第70刷．講談社学術文庫153．講談社 澤田昭夫(2016)論文のレトリック　第48刷．講談社学術文庫604．講談社 木下是雄(2017)理科系の作文技術　第82版．中公新書624．中央公論社
参考文献	野矢茂樹(2001/2017) 論理トレーニング．第46刷、産業図書株式会社、東京 本多勝一(2017)新版　日本語の作文技術．第3刷．朝日新聞社 沖森卓也(2016)文章が変わる接続語の使い方．初版．ベレ出版 John W. Creswell&J. David Creswell (2018) Research Desighn. 5th ed., Sage, Los Angeles John W. Creswell(2003/2007).操華子・盛岡崇(訳)、研究デザイン、日本看護協会出版会 J.W. クレスウェル、V.L.プラのクラーク著(2007/2010)、大谷順子(訳) 人間科学のための混合研究法、北大路書房 D.F.ポーリット&　C.T.ベック著(2004/2010)、近藤潤子(訳) 看護研究　原理と方法　第2版、医学書院
成績評価の方法	評価は、討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う
備　考	

科目コード	63110	授業科目	疫学と保健統計Ⅱ Epidemiology and Health Statistics Ⅱ	担当教員	○金城　芳秀
開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				
授業概要	ある特定の集団（地域、職域、学校などを含む）における健康に関連した状態や事象の関連要因と保健看護への疫学と統計学の応用を考究する。また、保健看護分野及び研究で用いられる統計手法に関して内外の文献を検討し、それらの妥当性及びデータ分析法を学習し、新しい看護学構築への疫学及び統計学の応用を考究する。				
到達目標	1.保健看護分野及び研究および学術論文で用いられる統計手法に関して理解、説明および活用できる。 2.自らの研究（特別研究Ⅱ）において疫学および統計手法を活用、応用できる。				

回数	教育内容及び計画	担当者名
第1回	統計学の目的（検定と推定、仮説検定、P値とは）	金城　芳秀
第2回	医療統計学	
第3回	医療従事者のための統計手法（理論）	
第4回	医療従事者のための統計手法（応用）	
第5回	看護研究における統計学の応用	
第6回	データ分析の方法	
第7回	回帰分析と相関係数	
第8回	多変量解析（重回帰分析とロジスティック回帰分析）	
第9回	多変量解析（主成分分析と因子分析）	
第10回	保健看護研究における統計手法の文献検討	
第11回	保健看護研究における疫学手法の文献検討	
第12回	EBM実践のための臨床疫学	
第13回	保健看護研究における疫学の応用	
第14回	社会疫学	
第15回	討議およびレポート課題	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	随意紹介する。
成績評価の方法	レポート課題と参加状況により評価する。
備考	

科　目 コード	63130	授業 科目	ヘルスプロモーション・健康教育Ⅱ Health Promotion and Health Education Ⅱ	担当 教員	○未定(非常勤) 井上　洋士(非常勤)

開講年次	博士後期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	選 択 科 目	授業 形態	講義
選択必修	選　択	時間数	30時間				

授業概要	疾病の有無にかかわりなくヘルスプロモーション、健康教育は生涯を通して重要であるとの認識から近年の理論と実践を理解し、その上で個人、グループ、地域、国のレベルにおける今日的課題とその対策を考察し、新たな実践方法の考案あるいは理論の構築を探索する。
到達目標	1.　健康教育とヘルスプロモーションの概念を歴史的・理論的に記述できる。 2.　国内外で実施されているヘルスプロモーション、健康教育の現状を説明できる。 3.　ヘルスプロモーションに関連ある人的・物的資源及び健康を理解できる。 4.　ヘルスプロモーションの視点から国・コミュニティ・施設・組織レベルでのアセスメントができる。 5.　課題の分析と評価、質の高いプログラム開発や理論化ができる。 6.　ヘルスプロモーション分野で看護職としてリーダーシップが発揮できる。 7.　健康教育・ヘルスプロモーション研究の指導ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
第1回	健康教育は何めざす？－健康教育とくに保健行動の理論	未定
第2回	健康教育からヘルスプロモーションへ、ヘルスプロモーションは何めざす？ ―エンパワメントアプローチとサルートジェニックアプローチ、「健康への力」の諸概念－	未定
第3回	健康生成論とストレス対処能力概念SOC	未定
第4回	SOCを高める介入・支援方策の開発に向けて－SOCが見えてきた!?－	未定
第5回	研究と研究論文そして研究者に求められるものは何か？	未定
第6回	介入研究・評価研究の理論と方法－慢性疾患セルフマネジメントプログラムとその評価研究からも学ぶ－	未定
第7回	15年に亘る我々の薬害HIV感染生存者・家族調査研究を語る ―ヘルスプロモーション理論の応用をみる－	未定
第8回	各人の研究の紹介と討論	未定
第9回	QOLとヘルスプロモーションについて再考する	井上
第10回	健康行動及び介入の理論的アプローチを先行研究から学ぶ	井上
第11回	スティグマと健康の関係を国・コミュニティ・個人などのレベルで考察する	井上
第12回	健康教育・ヘルスプロモーション研究でのソーシャルマーケティング	井上
第13回	当事者参加型リサーチの基本的な考え方と実践例	井上
第14回	健康教育・ヘルスプロモーションでのウェブ等新技術の活用可能性	井上
第15回	まとめ	井上

テキスト	教科書は別途指示する。
参考文献	
成績評価の方法	評価は、出席、課題レポート、討議への参加度・理解度によって総合的に判定する。
備　考	集中講義方式で行う。 講義の前に、課題レポートを提出し、講義では積極的な質疑、討論を期待する。